のバランス感覚を失い、 いた。3月末には強度の 11年前、小脳梗塞で体 た。マサコさんは勤めを ニックでは、津波のショ クが原因と診断され 介護に専念した。 所、宿泊、訪問を組み合 盆踊り大会を開いた。 月26日、事業再開を祝う 既に介護認定を受けて に人たちでも目立つ。 めだかグループ」は8 石巻市元倉の介護施設

ただ、自らも高血圧で通 震災と介助のスト 利枝さん(67)がボランテ る施設で、管理者の井上 わせてサービスを提供す ィアで障害者らに自宅を

スの会・キャンナス」の での活動拠点とする「全 国訪問ボランティアナー 全国の看護師が被災地 レスに悩まされている。 年近く高齢者を支えてき 開放したのが出発点。 たが、海岸から200以 しかない同市南浜町にあ

> もない宍戸さんを迎え入 波で自宅を失い、身寄り

れたのが、めだかだった。

護認定を初めて申請し 月中旬、良策さんの要介 できる。マサコさんは「自 病院に<br />
連れていけなくな 保険を利用し歩行訓練も ば少しは安心できる」 ては困る。 来たから、えがった」。 が助けてくれた。ここさ 宅を流された宍戸はなへ さん(96)も再開を喜んだ 再開にこぎつけた。 人だ。「おうちは流さ 津波で1人暮らしの自 何にもねえ。めだか 別の場所に移転して

> 護学)は「家族関係が変 の大木幸子教授(地域看

地域のつながりが

認知症は進み

コさん(65)は でけり破った。 脇のふすまを不自由な足

「津波で生

眠れない日が続 直後は水も口に

妻のマサ

のいだ。

市渡波の阿部良策さん

農におびえた宮城県石巻

のだと思う」と話す

(1)は、寝ていたベッド

宅の屋根の雨どいにすが って何とか津波を耐えし

> など、精神的な落ち込み 方がましだ」と口にする

メンタルクリ

良策さんは震災時、

8月19日、震度5弱の余

津波が来っと!」。

の境をさまよったの 黒い波が目に浮かぶ

【鈴木梢、曽田拓】

ともできたが、震災で体

菜園で草むしりをするこ

足元がふらつくようにな

っていた。それでも家庭

くなった。

「この状態なら死んだ

勧めで、

マサコさんは8

た建物は津波にのま

けではない。認知症が進

んだ人が目立つ」と話す。

保健師でもある杏林大

ある。だが、井上さんは

宍戸さんは改善しつつ

症状悪化は宍戸さんだ

調が悪化し、

ほぼ歩けな

田車をかけている。

や受け皿の施設も被災で疲弊し、

活を強いられたりするなどの環境変化は、

高齢者

態が浮かんだ。津波で自宅を奪われたり、 に要介護認定を申請する高齢者が急増している実

東日本大震災から半年を迎える被災地で、

貧血で入院した。

の体をむしばむ。一方、介護の担い手だった家族

被災3県の沿岸自治体の要介護認定新規申請件数(4~

とってもサービス低下を 担が増すほか、入居者に く定員超過は事業者の負 いて対応している。長引 てほしいが、この状況で はやむを得ない」と、1 人部屋にベッドを二つ置 国は被災した施設の復 た施設を何とか再建し

る方針を打ち出した。「当

た施設に定員超過を認め

するため、

無事だっ

た施設の定員減少分をカ

国は震災直後、

くたった今も定員超過が 面」の措置だが、半年近

く施設が少なくない。

農災前は定員通りの18

招く懸念がある。

法人は「自己負担が6分 の補助率を6分の5に引 旧費用について、国や県 1でも、施設を再建す だが、朝日のグループ

と説明する。 く一方、

被害に遭った同じグルー

護施設

き上げた。

は震災後、津波

ノの特別養護老人ホーム

33人が暮らす。

ムは「被害に遭

要。とても負担できない」

施設側で定員超過が続

るには億単位の資金が必

現在も定員のほぼ倍

岩沼市の「グループホー

が暮らしていた宮城県

間 利 ところが再開後、

の訪問を受け、歩くためのアドバイスを 受ける阿部良策さん (右から2人目) =石巻市 で8月26日、鈴木撮景 家を流されて居場所を失 介護可能だった高齢者が 例も起きている。在宅で 戻る日に備え、市から「将 が別の場所で事業を再開 巻市の「めだかグループ」 例も少なくないからだ。 減少して経営が悪化する 事業者側では、利用者が したのは、住民が地域に 津波で被害を受けた石 特養などに入居した

思うと不安で仕方ない。

年後どうなっているかと 管理者の井上さんは「5 たところもあるという。 悪化でスタッフを解雇し の事業者の中には、経営 ているが、運営の維持に とを条件に補助金を受け スタッフを解雇しないこ 者は3分の1に減った。 一分な額ではない。周囲

訪問介護などの

在宅サービスを提供する

的には絶対に必要にな

されたからでもある。

訴える。

両手を合わせる。

「ありがとう」と

3月11日。宍戸さんは

病院に入院中だった。 大腿骨骨折で市内の総合

けるまで回復してい

県内陸部にある大崎

市の病院に搬送された後

症状が悪化。寝たきり

となり、食事や排せつも 助が必要になった。

が大事だ」と指摘する。 がちになる。周囲の人が **高齢者に声を掛けること** 

櫓葉町 83 広野町 43 いわき市 1330 計

井上利枝さん (左)

野 田 村

普 代

山大釜 田 町 69 95

田野畑村

泉古

槌

石 市

大船渡市

陸前高田市

計

気仙沼市

女川町石巻市

府釜台

七ケ浜町

取 市

沼 市 128

南相馬市

一葉熊

岡葉 町

浪 江 町 213

双

人大富档

亘 理 町 149

山元

市 市 3036 2619

松

利

市 238 187

町 109

に向かい、 くお願いします」と手を合わせる宍戸 へさん―石巻市で8月27日、鈴木撮影

121

12

66

197

129

107

643 123 204

42 137

111

194

宍戸さんは井上さんに向

46 54

6 5

10 17

61 61

234

217

113

1241 1051

363 225 不明 46

132

1006

84

60 41

61

201

81 40

133 175

91

70 町

119 19 市

6月)

※南三陸町の昨年データは津波で流失

9656 7146